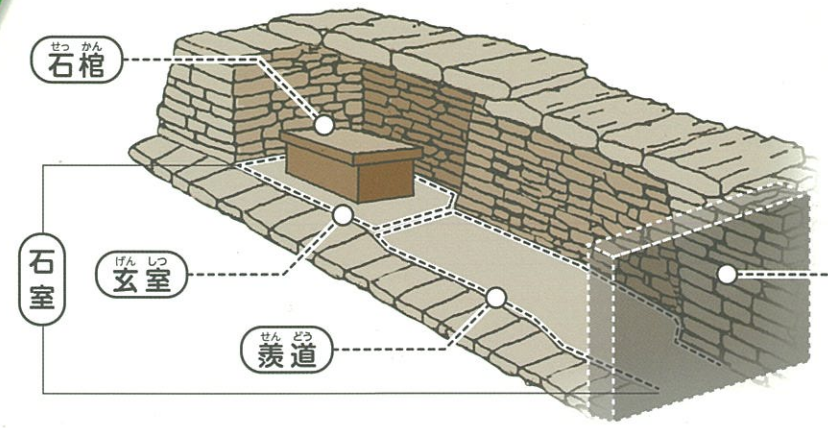


コラム①
COLUMN

古墳の中は どうなっているの？



石室の入口は
土や石で埋めます。

《古墳内部のイメージ図》

— 横穴式石室 —

古墳の中には石室があります。石室は木棺や石棺を置くための玄室と、石室の入り口から玄室につながる羨道でできています。石室の入り口は土や石で埋められています。

コラム②
COLUMN

須恵器と土師器って？



須恵器

古墳時代から作られていた土器です。青灰色で硬いことが特長です。



土師器

須恵器と同時期に作られていた土器です。日常生活で使用されていました。

榛原の古墳

— せんづみ 磚積石室墳ってなに？ —



令和2年度 地域の特色ある埋蔵文化財活用事業 リーフレット

『榛原の古墳 — 磚積石室墳ってなに？ —』

編集・発行 / 宇陀市教育委員会 [奈良県宇陀市榛原下井足17-3] 2021年3月

表紙写真：奥ノ芝2号墳

宇陀市教育委員会



古墳ってなに？

古墳時代(3世紀後半から400年間)に土を高く盛り上げた墳丘をもつお墓(古墳)が造られていました。この期間に日本国内で16万基の古墳が造られたと考えられており、南は九州・北は岩手県まで幅広く分布します。

宇陀市でも、1,100基以上の古墳が確認されています。市内の古墳の多くは、4世紀後半から7世紀に造られています。また横穴式石室を持つ古墳は、6世紀中頃から出現することが確認されています。横穴式石室の一種である磚積石室も7世紀前半から後半にかけて奈良市・明日香村・桜井市・宇陀市に見られるようになります。

奈良県指定史跡

奥ノ芝1号墳

[宇陀市榛原ひのき坂]

Okunoshiba No.1 Kofun (Tomb)

現在は、住宅地となっていますが、榛原ひのき坂には南北に伸びる細長い尾根があり、尾根上に4基の古墳からなる奥ノ芝古墳群などがありました。奥ノ芝1号墳は、1971年の発掘調査で、南に開口する横穴式石室であることがわかりました。この石室は、市内で採れる通称榛原石を煉瓦のように積み上げた磚積石室です。石室の規模は、長さ6.3m、玄室の長さ2.56m、幅1.2m、高さ1.45m、羨道の高さ3.75m、幅1.05mです。石室内からは、土器(須恵器、土師器)が出土しています。1号墳は、7世紀中頃に造られたと考えられ、貴重な終末期古墳です。なお、この古墳は、1985年の宅地造成の際に取り壊されたため、ひのき坂古墳公園内に磚積石室を復元しています。



奥ノ芝1号墳



奥ノ芝2号墳



磚積石室ってなに？

石材を方形に加工し、レンガ積みした石室あるいは単に板状の石材を積み上げた石室を総称して磚積石室と言います。この石室の石材は、通称、榛原石と言われる火山の噴火で出てきた火山灰や軽石が積みかたまった石状のものが使われています。



西峠古墳

西峠古墳

[宇陀市榛原榛見が丘]

Nishitouge Kofun (Tomb)

榛見が丘の造成に伴い、井之谷遺跡群の発掘調査を1995年から1997年にかけて行われました。2箇所の尾根からは2基の古墳(6世紀~7世紀)、36基以上の中世墓(13世紀~16世紀)などが見つかっています。井之谷遺跡群の西端にある西峠古墳は、一辺8m、高さ1.5mの方墳で、周りには溝(周溝)をめぐるせていました。昔に掘られており、石室の多くが破壊されていましたが、奥壁付近は良好な状態で残されていました。石室は、長さ4.33m~4.39m、玄室の長さ2.03m~2.09m、石室内からは、中世の土器、周溝内からは、須恵器、土師器などの土器類が出土しています。飛鳥時代(7世紀中頃)の役人のお墓と推定されます。西峠古墳の現状保存が困難であったため、磚積石室を解体し、榛原いのたに公園に復元しています。



榛原駅

榛原小学校

宇陀市役所

榛生昇陽高校

奈良県指定史跡

奥ノ芝2号墳

[宇陀市榛原ひのき坂]

Okunoshiba No.2 Kofun (Tomb)

奥ノ芝2号墳も1971年の発掘調査で、南に開口する磚積石室であることがわかりました。墳丘の大半は改変されていますが、直径10m程度の円墳と推定されています。羨道部の側壁の一部と天井石は失われていたものの、比較的良好な状況で南に開口する磚積石室です。石室規模は、長さ7m、玄室の長さ3m、幅2m、高さ1.9m、羨道の長さ4m、幅1.26m、高さ1.5mです。玄室内には、組み合わせ式の箱形石棺を安置しています。石室内から須恵器、土師器、鉄のやじり、耳飾りのほか、木棺の存在が予想される鉄釘が出土しています。2号墳は、1号墳よりやや早い7世紀前半に造られたと考えられています。

